

高校生発！
私たちの地域づくり！



地域教育東予ブロック集会

2016 第1回大会

かかわりを千カラに
つながいをカタ千に



期日 平成29年2月5日（日）12:00～17:00
場所 西条市中央公民館
主催 地域教育東予ブロック集会実行委員会
後援 愛媛県・愛媛県教育委員会
「えひめ教育の日」推進会議



「縮充」の時代を生き抜く力を

地域教育東予ブロック集会実行委員会

実行委員長 関 福生

県内の子どもたちと関わりを持つ同志が集い、お互いが活動実践を自慢し合い、悩みや不安を少しでも解決できればと大洲青少年交流の家に集結した「地域実践交流集会」も早いもので既に9回の実績を重ねた。その間、多くの地域の実践が紹介され、子どもたちの育ちを支えていこうという熱い「志」がつながり、多くの交流や協働の機会も生まれてきた。継続が地域に元気を呼び起こし、活性化に貢献してきたのかと感じている。

昨年度と今年度は文部科学省の「学びを通じた地方創生コンファレンス事業」の指定を受け、全国各地に枠を拡大してきたが、さらに地域に根差した活動展開を図るために、東中南予において、それぞれブロック集会を開催するという運びになった。地域教育は自分たちの生活する地域が基盤であり、身近な公民館や学校、関係団体との連携協働を図ることの大切さを再確認したいと考えたわけである。

東予ブロックでは、平成28年からの18歳選挙権導入を受け、これまで社会教育から縁遠かった高校生にスポットライトを当ててみた。今回のテーマは「高校生発、私たちの地域づくり」である。現在、高校生世代は全国各地で目覚ましい活躍を遂げている。長野県飯田市や岐阜県可児市ではすでにまちづくりの担い手として高校生が大きな戦力となっている。まちづくりには「馬鹿者、他所者、若者」の視点が必要といわれるが、高校生はそれらの要素を持つ世代であり、社会のことを真剣に考え、自らにできる形で地域を創っていきこうと動き出すパワーは∞である。しかしながら、大人は高校生の現実にあまりにも無知である。当集会では高校生たちとフラットな立ち位置で対話を重ね、それぞれの価値観や行動パターンを理解することから始めたい。その結果、お互いの信頼感が深まり創発が生まれれば何よりだと思う。今回4つの地域の高校生の活躍が紹介されるが、それらを特別視するのではなく、おらが町の高校生も同じ可能性を持っているという気持ちになり、地域の高校生を信頼、信用できるよう意識を変革してほしいのである。

掲題の「縮充」は私も参加させていただいている文部科学省の会議で、コミュニティデザイナーの山崎亮さんが語っていた言葉だ。現在、少子高齢化が進行し、日本は人口減少社会の途を辿っている。すでに右肩上がりの成長の夢は思い描くことは困難である。しかし、縮んでいく社会を否定的にとらえるだけではなく、市民が主体的に地域づくりに参加、参画さらには協働することによって、みんなが楽しみ、人生を充実、充足させていく方向にしていけるはずだ。これからの時代のキーワードは「縮小」ではなく「縮充」だと熱く語っておられた。まさに同感である。未来を創っていくのは私たち自身、楽しみながら、主体的に参加し、みんなでこの集会を東予の地域教育の新たな一歩としていきましょう。


「かかわりをチカラに、つながりをカタチに」の合言葉の下に



集会趣旨説明 (実行委員 青野信久)

毎年大洲で開催している「地域教育実践交流集会」において、各地の地域活動者・活動グループが、互いの交流を深め、地域の教育力を高め合う交流を行ってきました。その取組を東予でも行い、「かかわりをチカラに、つながりをカタチに」を合言葉に、地域教育にかかわる者のつながりを広げていくための会にします。

日 程

12:00～	受付開始	
12:35～12:50	歓迎アトラクション「三芳祝太鼓」	
13:00～13:15	開会行事 開会挨拶 実行委員長 関 福生 趣旨説明 実行委員 青野 信久	
13:15～14:45	シンポジウム 「高校生が地域と取り組む実践報告を題材に」 県内2例、県外2例（資料3～10ページに掲載） コーディネーター：愛媛ボランティア学習研究会 柴崎あい	
14:45～15:00	休憩	
15:00～16:30	ワークショップ 「若者と共に拓く地域づくりにどのように取り組むか」 ファシリテーター：実行委員 柳瀬 剛、宮崎 恵	
16:30～16:40	閉会行事 閉会挨拶 副実行委員長 西山 博	

アトラクション「三芳祝太鼓」

三芳祝太鼓保存会は、三芳公民館で活動をしている和太鼓グループです。昭和60年に、子どもの居場所づくりのため「三芳わらべ歌グループ」を発足、昭和



61年に地域の方のご尽力で太鼓を揃えていただき「三芳祝太鼓」を設立し、平成7年から「三芳祝太鼓保存会」として活動をしています。子どもだけの和太鼓グループは、全国的にも珍しいそうです。平成19年には、西条市の芸術文化賞を受賞しました。

現在、三芳小学校の1年生から6年生の児童24名で活動をしています。

主な活動は、各種イベント、文化祭、また社会福祉施設などの訪問など、市内外からの依頼もあり、年間20回ほどの演奏活動をしています。



シンポジウム

「高校生が地域と取り組む実践報告を題材に」

コーディネーター：愛媛ボランティア学習研究会 柴崎 あい

1 愛媛県立新居浜南高等学校 ユネスコ部

「マインからマインドへ

～新居浜の誇れる別子銅山を活かしたまち学習・まちづくり学習～」

2 高校生ボランティアサークル May（新居浜市）

「私たちが創る未来へ」

3 高知県黒潮町教育委員会

「高知県立大方高校の歩みから」

4 岡山県立矢掛高等学校

「私たちの地域づくり～矢掛高校の場合～」



愛媛県立新居浜南高等学校 ユネスコ部

マインからマインドへ

～新居浜の誇れる別子銅山を活かしたまち学習・まちづくり学習～



私たちユネスコ部は、地元である新居浜市が誇る別子銅山について学び、ワークショップや現地でのガイドなどを通して情報発信を行っています。

現在の部員は3年次3名、2年次6名、1年次1名の計10名と、河野義知先生をはじめとする顧問の先生方3名で活動しています。



新居浜市は人口およそ12万人の四国屈指の工業都市です。その新居浜市が工業のまちになるきっかけが別子銅山でした。

別子銅山は、1691年(元禄4年)に開坑し、その7年後にはなんと世界一の産銅量を誇りました。1973年(昭和48年)に閉山するまで、283年もの歴史を持つ新居浜市の宝です。



ユネスコ部の前身である情報科学部では、1999年から別子銅山に関する学習活動を行ってきました。そして、2001年からは愛媛大学教育学部の曲田清維教授にご指導いただき、別子銅山の産業遺産を紹介するガイドブックを制作しました。誰もが手軽にこれを手にとり、別子銅山を体験しながらふるさとのルーツを学んでほしい。そこからさらに別子銅山の魅力を知るきっかけづくりにしたい。そんな願いを込め、4年という歳月を経て完成しました。



2009年に開催された、高校生が主役となり、地域の魅力をアピールする独自の地域観光プランを競う「観光甲子園」の、神戸夙川学院大学が主催した第一回大会に参加しました。別子銅山の近代化産業遺産を巡りながら学ぶツアーを発表し、準グランプリを受賞しました。そのプランをもとに商品化したものが、「あかがねの道スタディーツアー」です。



本校は、2010年に四国初のユネスコスクールに認定されました。そのことをきっかけに、これまで活動してきた「情報科学部」から「ユネスコ部」へと部の名称を改め、世界に向けた情報発信活動を目指すこととなりました。ユネスコスクールとは、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築こう」というユネスコの理念に基づいた活動をしている学校を認定する制度です。

・今年度の主な活動

ツガザクラ保護活動



ツガザクラ



東北現地研修



図書館学習会



子ども食堂



中学校でのワークショップ



観光ボランティアガイド





♡May 主催イベント♡



高校生ボランティアサークル **May**



第4回 私たちが創る未来へ

3月12日(土) 10:00-16:00

無料

新居浜市市民会館

高校生ボランティアサークル May

〒855-0855 新居浜市

私たちが創る未来へ

交流一大体験ゾーン in 新居浜



新居浜市内の園児・児童・高校生の皆さんによる演奏や合唱、専門家の先生方による各種体験ブース、子ども絵画展、昔懐かし縁日コーナー、参加型豪華景品が当たるMayと対戦、飲食ブース、福祉団体ブース、行政、市民団体、地域サークル、地元企業等コラボレーションや子ども店長ブース、GOGOBABY など全世代が楽しめる内容です。



♡新居浜市共催イベント♡



第1回 新居浜市 フェスティバル 高校生

3月12日(土) 無料

新居浜市市民会館

高校生ボランティアサークル May

公立高校、高等専門学校生徒120人が、演奏、合唱、18歳選挙権イベント、模擬店、ダンスコンテスト、コスプレ大会、手作り市、SL機関車、体験ゾーン等に協力、約5,000人のお客様で終日賑わいました。

新居浜市市長 石川勝行様 御祝辞 高校生が今求められている事を自ら考え、自ら企画し、自ら行動されるという事、そして様々な催し物を通じ、様々な団体との協働の関係を構築された事など高校生皆様の故郷新居浜に対する熱い想いが伝わってきて大変心強く思っているところです。企画から準備運営まで中心的に携わっていただきました高校生ボランティアサークル May の皆様に心から感謝申し上げます。





♡ボランティア活動♡



高津公民館 れんげ祭り、歩け歩け大会、夏祭り、文化祭、大掃除、草むしり、地域避難訓練、青少年防災キャンプ、障がい者スポーツ、文房具寄贈チャリティーフリーマーケット、市政だより取材、重要文化財広瀬邸台所喫茶、きっすセミナー、市民団体イベントなどのボランティア活動をしています。



新居浜市教育委員会 高津公民館 館長 柴田晋八郎様 Mayは高津公民館が主催する数々の行事のボランティアをしてくれています。特に小学生、中学生のお世話をしてくださり感謝しております。いつも感心するのは、きちんとした礼儀とイベント後の清掃の徹底です。若い女性の視点でのまちづくりを聞かせてもらうために、「まちづくり構想推進委員」になっていただきました。Mayとともにまちづくりに取り組んでいるところです。



♡卒業生♡



大学や専門学校を卒業したら、必ず新居浜に戻ってきます。私たちの夢は、自分の子どもをMayに入れ、母娘一緒にMayの活動をすることです。一生Mayでいます！



高校生ボランティアサークル May

初代会長 小野亜里沙 書記 加藤佑奈 前原沙帆
一緒に活動する時間が短くて何も伝えることが出来なかったのですが、素晴らしいイベントに育ててくれて感慨深いです。高校卒業後、新居浜を一度出ると、ほとんどの人は戻ってきません。「みんなが戻ってくる魅力あるまちづくりをしたい」「このまちを元気にしたい」「結婚しても過ごしやすいまちにしたい」とMayを創りました。だから、私たちも大学を卒業したら必ず戻ってきます。Mayの掟は「メンバーの一人でも学校の成績が下がったら即解散」です。自主サークルですが、学生の本分は勉強なので、この掟が出来ました。大人にプレゼンをするので国語の成績が上がるメンバーも多いです。二代目会長 山口尊風 副会長 野本真有 書記 永野結
先輩たちは、このまちを魅力あるものにするには、同世代の交流が大事だと考えていましたので、後を引き継いだ私たちも市内の高校生とのコラボレーションを志すようになりました。一番、頭を悩ますのは原価試算です。仕入れから販売まで全ての計算をします。イベントの収益は、被災地への寄付や地域への助成など全て社会に還元しています。

高知県立大方高校の歩みから

高知県黒潮町教育委員会 畦地 和也

それまで……

平成 15 年 高知県教育委員会高等学校再編計画

大方商業高校→多部制単位制高校 ※反対運動が起こる

平成 16 年 「学校の未来を語る会」発足：校名「大方高校」に決まる。

平成 17 年 高知県立大方高等学校開校

・学校運営協議会（コミュニティスクール）

×応援団 → ○プレーヤー

・自立創造型地域課題解決学習（高大連携）

黒塩/かつおタタキバーガー/かつばあ

平成 28 年 「世界津波の日」高校生サミット in 黒潮 議長

平成 29 年 （昼間部）定時制 → 全日制

そして、今後……



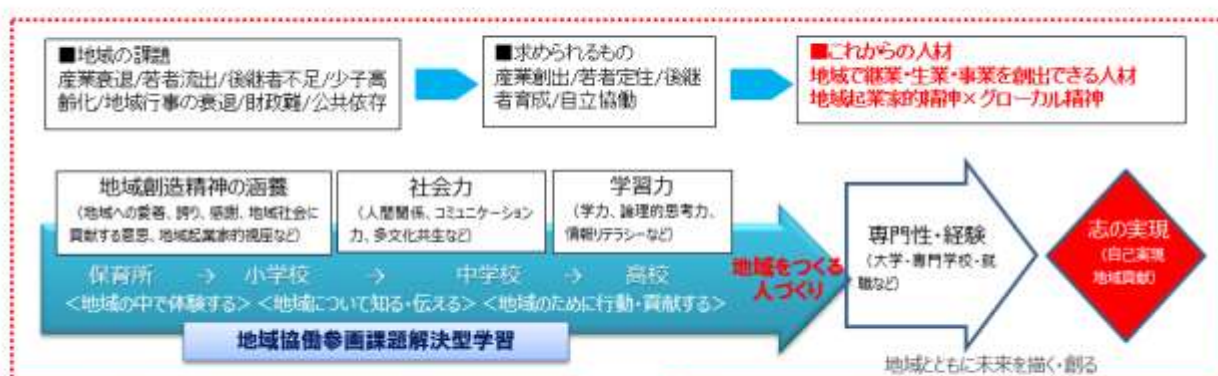
地方創生ということに関して…



次期高校再編計画で「大方高校」は残っているか…

人口の流出・転出を防ぎ流入・転入を促進するために
大方高校の魅力化・存続が必要(地方創生の観点から)

- 条件不利地域における高校存続と人口流出(流入)は関連している。
- 地方創生は「ひと」が「創る」「ひと」をつくり、「ひと」が「しごと」「まち」をつくる流れを確かにする。
- 「学校を核とした地域活性化及び地域に誇りを持つ教育の推進」(閣議決定「まち・ひと・しごと創生総合戦略」)
- 学校を核とした地域力強化=コミュニティ・スクール/学校支援地域本部→**地域への愛着・地域課題を解決していく力**(閣議決定「まち・ひと・しごと創生基本方針」)



地域教育コーディネーター(教育魅力化特命官)の配置 ※地域おこし協力隊もあり…



私たちの地域づくり～矢掛高校の場合～

岡山県立矢掛高校 2年 中村 彩楽／西村 優芽／井辻 拓海

1 岡山県小田郡矢掛町



人口：14,000人（内子町16,000人）

高齢化率：37.0%（全国平均26.6%）

学校：小学校7校

中学校2校

高等学校1校

歴史：小田川に沿った農業／水車を利用した
麺（小麦粉）づくり／江戸時代には旧
山陽道の宿場町／戦後には工場誘致
など／衰退した商店街活性化策とし
て町並み整備&観光促進（H27～）

2 矢掛高校

<最近の動向>

H16 町内2つの高校（矢掛高校と矢掛商業高校）が合併し、新・矢掛高校スタート

H17 学校設定教科・環境科スタート

H20 ユネスコスクール認証

H21 3コース制スタート

H22 学校設定教科・やかげ学スタート

H23 第1回ユネスコスクールESD大賞（高校の部）受賞

H26 ユネスコスクールESD世界会議・高校生フォーラム参加

<3コース制>

普通科・探究コース（1クラス）・・・国公立大学を目指す進学コース

普通科・総合コース（2クラス）・・・体験的学習を重視した人間力育成コース

地域ビジネス科（1クラス）・・・商業科目や資格取得で進学・就職を目指すコース

全校生徒424人（H28.5月現在）

3 私たちの地域への取組

① やかげ学【普通科・総合コース】

毎週木曜日の午後、2年生1学期に矢掛町の
ことを学んだ後、2年生2学期から3年生1
学期にかけて町内14施設での実習活動を行う。
3年生2学期末には学んだことを「やかげ学発
表会」で発表する。一年間の継続的な施設実習
のおかげで地域の人々との関係が深まる。



② 商品開発【地域ビジネス科】

矢掛町商店街とコラボして、毎年新しい矢掛名物を商品開発。秋の大名行列で販売実習する。(開発商品例：ゆずほわ、梨福、アスパラパスタ、てんぺアイス、米粉入りフレンチ等)



③ 学生コンテスト【普通科・探究コース】

全国の大学や自治体が主催する学生コンテストにチャレンジ(総合的な学習の時間)。地域課題解決系のコンテストでは入賞者もよく出ている(入賞例：農力向上プラン、いかさ観光プラン、高粱ビジネスプラン、田舎力甲子園、地域CM等)



④ 得得市・青空科学教室【サイエンス部】

毎月第3日曜日に井原線・矢掛駅前で開催されている「得得市」に継続参加し、子どもを対象にした青空科学教室を実施。化学反応を利用したスライムづくりやカイロづくりなど、地域の中で楽しく科学に親しめる機会を作っている。



⑤ お祭りコラボ【希望者参加】

春の「流し雛祭り」、夏の「行燈祭り」、秋の「宿場祭り」、冬の「干し柿祭り」など、町のお祭りでいろいろな役割を高校生が担っている。企画段階から関わらせていただくことで、地域理解や実践力の向上が期待できる。



⑥ YAKO ボラ【希望者参加】

定期考査の最終日には毎回、昼から地域ボランティア活動が組まれている。町内幼稚園の草抜きや福祉施設の風呂掃除などを通じて地域の人々との関わりも深まり、試験が終わった後のこの行事を楽しみにしている生徒も多い。



⑦ 先進地域視察など【希望者参加】

「白石島ESDプログラム」「上勝町視察」「真庭バイオマスツアー」など、特徴的な地域づくりを行っている先進地域を訪れ、矢掛町の町づくりのヒントを学んでいく。



⑧ YKG60【町内の小・中・高校生の希望者参加】

矢掛町の小学生・中学生・高校生が連携して活動している「町おこし」の連合チーム。町を舞台にしてやってみたいことを子どもたちが発案。基本的には子どもたちの力で実現までもっていく。国際交流チーム「Y★can」、福祉交流チーム「YKGすみれ」等、新チームを創出する生徒も現れている。



シンポジウムの記録

愛媛県立新居浜南高等学校ユネスコ部に対して

- ユネスコ部の活動資金はどのようにしていますか。
→ 部活動としては学校から6万円が支給されています。秋田県への現地研修は、文部科学省委託事業を受けている新居浜市の事業費の中から活動費を助成してもらっています。また、愛媛県教育委員会の事業を積極的に引き受けて、活動費に充てています。(顧問が回答)
- あかがねスタディーツアー(これまで9回で280名の参加)の宣伝や募集は、どのように行っていますか?
→ 市民だよりで紹介してもらったり、様々なイベントに参加させてもらっているのので、その時に口頭で宣伝したり、インターネットで募集したりしています。
- ユネスコスクールになって変わったことや、活動の独自性はありますか?
→ 2010年に認定されました。愛媛県ではまだ認知度が低い状況ですが、新居浜市では2016年に全ての小中学校がユネスコスクールに認定されました。そこで学んだ子どもたちが、進学でユネスコスクールにというときに、本校が選択肢となっています。それに伴って、新居浜市教育委員会が進めている「ふるさと学習」の中で、別子山登山がありました。それが始まって5年になります。その関係で、中学校に出前授業に行くようになりました。自分たちの中学校に高校生が来てくれて、別子の山のことを紹介してくれたり、いっしょに登山をしてくれたり。それらのことがきっかけで、本校への進学希望者が増えてきている状況です。それがユネスコスクールにとっても広がりになってくると思っています。(顧問が回答)
- 発表にあった「バーチャル登山」について教えてください。
→ アドベンチャー形式で登山口から登り始めて、山頂にある宝箱を目指していくというストーリーを基にしたプレゼンテーションになっています。クイズもあって、中学生のみなさんの参加型のプレゼンテーションになっています。
- 一般向けにやってもおもしろそうな内容ですね。「こんなに素晴らしい活動をしているので受験生も増えてきているのではないか」とか、「大学の先生のアプローチ方法は?」といった質問も会場から寄せられていました。

高校生ボランティアサークル「May」に対して

- 構成メンバーはどのようになっていますか?
→ 現在は16人。新居浜市内のいろんな高校から、Mayの活動に興味を持った人が集まっています。以前は男子もいましたが、今は全員が女子です。
- 中心になっているメンバーと、イベントの時にだけ手伝いに来るメンバーがいるのですか?
→ 大きなイベントをするときは私たちだけでは無理なので、学校の友達を誘いあってたくさんボランティアを集めています。
- 活動拠点は、新居浜エリア全域という捉え方でいいですか?
→ 基本的に新居浜市内でイベントやボランティアをしています。市外でも参加することはあります。
- 活動資金はどのように確保していますか?市からの援助はあるのでしょうか?
→ 子どもたちがやりたいと言って始めたことなので、学校や行政とは関係なく、資金援助は一切ないです。1回目のイベントの時には、キリン福祉財団の補助金を子どもたちで企画書を書いて採用されました。2回目は愛媛地域政策センターのアシスト事業に応募して、採用されました。3回目は自費でした。文化祭や夏祭りでボランティアをさせてもらう時に、ブースを持たせてもらいました。その売上をどう使うか話し合ったところ、自分たちのためではなく、次回のイベントで地域のために還元したいということになりました。4

回目は、行政も黙っていられなくなったのか、新居浜市の中間支援組織「まちづくり協働オフィス」で、2年前に「高校生の柱」という組織ができました。そこで「高校生フェスティバル」をしようということになり、新居浜市から共催という形で費用をもらうことになりました。(Mayの活動を見守る大人がが回答)

○ たくさんのイベントを手掛けていますが、自分たちが「やろう」または「断ろう」といった選定基準はありますか？また、宣伝部隊だとか会場手配だとか、それぞれの役割分担は決まっているのですか？

→ 基本的に役割分担はありません。学年関係なく自分たちがしたいと思ったことを、イベントで実現させていくという形です。月に1回定例会をしているので、そこで提案しています。

高知県黒潮町教育委員会に対して

○ 大方高校をコミュニティスクールにすることで、先生や地域の方から反対する声はありましたか？また、学校運営協議会「コミュニティスクール」とは、わかりやすく言えばどんなシステムなのでしょう。

→ まず、学校が設置したいと申し出てきたことなので、地域の反対はありませんでした。また、管理職が決めたことなので、先生方の中には疑問を持っていた人もいたかもしれませんが、表立って反対の声は聞いていません。コミュニティスクールというのは、学校のカリキュラムや人事にまで口が出せることになっています。単に開かれた学校というだけではなく、もっと権限を持った組織です。具体的に「この先生を変えて」というようなことはありませんが、この教科で実力のある先生を配置してほしいとか、来年はここに力を入れたいので、その分野で実力のある先生を配置してほしいといった要望を県教委に出しています。

○ 高校を卒業した後、大学等でいったん町を出ていくと思いますが、生徒はどんな感じで町に帰ってきているのか、また、帰ってきて仕事がある地域なのでしょう？

→ 大学は通える所にはないので、高知市内や関西、関東に行って、ほとんどの子がそのまま就職をします。なぜなら、働く場所がないからです。せいぜい、役場の職員とか教員とか地域の銀行とかです。最近、兆しが見えてきているのは、大学を出てから地元で起業をしたいという子がちらちら出てきています。つまり、学校を出てから働く所がないから帰れないというのはこれまでの常識でしたが、地域に帰って自分で仕事をつくりたいとはっきり言う子が出てきました。この先、期待しています。

○ 今後の取組として、地域教育コーディネーターという言葉が出ていましたが、コーディネーター力を持った人材を確保するための方策はどのように考えていますか？また、地域と学校をうまくコーディネートするために、どんな資質が必要だと思いますか？

→ 昭和30年代40年代は、地域の人と子どもたちはよくつながっていたと思います。地域で、大人の仕事がよく見えていたし、行事に子どもたちが必要とされていたので、知識は学校で学ぶ、生きることは地域で学ぶという、両方のバランスが取れていたと思います。ところが、地域で生きるということを学ぶことがだんだん少なくなってきて、学校で知識の教育ばかり大きくなってきました。例えば、ゆとりの時間とか総合的な学習の時間が出てきて、生きることを学ぶ時間をつくらうとしたんだけど、たぶんそれはうまくいかなかったんでしょうね。だから今、それぞれの学校で生きることを学ばざるを得なくなってきています。高校だけでなく、中学校も小学校も地域教育が必要となっています。だからこそ、地域と学校を結んで、子どもたちが地域の中で生きるということを学ぶことができる仕組みを運営できる人を貼りつけないといけないと思います。社会が求めているニーズと学校がそれに対応できる労力との乖離が起きていると思います。教育魅力化のコーディネーターのような人たちを配置することを制度化する必要があると感じています。制度ができるのを待っていたら間に合わないの、自分たちの町独自でできることはないかと模索しています。

岡山県立矢掛高等学校に対して

- ESD 大賞を受賞されたそうですが、ESD とはどのような活動でしょうか？
 - 「education for sustainable development」の略で持続可能な開発のための教育ということです。高校としては、それをメインにやっていきたいと考えています。1年生の時から、環境破壊とか地域社会の持続はどうなるのかとか、持続不可能なことがどんどん出てくるから、それに立ち向かえるように知恵を振り絞っていこうとアイデアを出していています。（顧問が回答）
- 大変充実した活動をしています、地域とのつなぎ役は先生がしているのでしょうか、それとも生徒が地域とのつなぎ役も含めて活動しているのでしょうか？
 - 地域とつながることはたくさんあります。矢掛学では、先生方が地域の方をお願いして、私たちの行くところを作ってくれています。YKG では、地域の発起人の方と先生が地域のつなぎを作ってくれています。大人や先生方の協力があって、地域とつながっています。

司会者から4団体へ

- 新居浜南高校は、郷土学習を通して確かな知識をつけたり、人と交わる中での地域の愛着というのが育っていると感じました。シビックプライドという言葉が最近よく使われますが、それを同世代の仲間や次世代の中学生や子どもたちにもちゃんと伝えているというのが印象的でした。活動している中で、自分の中に起きた変化、自分たちはこのように変わったなあと思うことがあったら教えてください。
 - 決断力や臨機応変さを身に付けられたことが大きな成果だと思います。その中でも一番大きな変化は、進路でずっと悩んでいましたが、ガイド活動を行う中で、ガイドの魅力に気付き、将来、新居浜のいい所を紹介する人になっていきたいと決断することができたのが、私の一番大きな変化です。
 - ユネスコ部に入るまでは、人前で話すことや人と会話することが苦手でしたが、様々なイベントに参加したり、発表する機会を与えていただいたりして、人前で話すことができるようになりました。また、いろんな人と交流できることが楽しくなってきた、発表の励みにもなり、コミュニケーション能力も身に付いてきたと思います。
- すごく盛りだくさんの活動をしていました。若さがキラキラしている発表でした。既定概念を飛び越えて、学校種がバラバラの人たちが集まって活動していて、新しいつながりを作っていく姿。思いっきりやりたいということで、構想や準備の段階から、自分たちの力を思い切り発揮したいという世代なんだなあと感じることができました。自分たちが活動していく中で、自分たちだけではできないこともあると思いますが、大人がこのように関わってくれるところが助かったよという体験だったり、こういう反対があってすごく大変だったという思い出だったり、また、そのような中で自分が感じたりしたことを教えてください。
 - 大変だと思ったことは、初めてのことがとても多くて、何をしたらいいかわからないことがたくさんあったんですが、そんな時に先輩方や友達、メンバーたちの支えがあって乗り越えられたと思います。人と関わるのが少し苦手でしたが、今では人と関わるのが楽しくてしょうがなく、将来も人と関わる仕事を選びました。May で学んだことは、将来も生かせることなので、これからはいっぱい頑張っていきたいです。
 - すごく人見知り、人と関わるのが苦手でしたが、私たちが主催する様々なイベントで人と関わって、いろんな人に支えてもらって、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。その中で、コミュニケーション能力が高まったり、指示待ちでなく自分から動くことを学んだりしました。3年間で多くのことを学んだので、これからの人生に生かしていきたいと思います。

→ May を作った初代の先輩方が、高校生だけでやっているということで反対されることもあったんですが、自分たちの町を変えていくには高校生から見た視点というのも大事だと思うので、大人の方たちの支えもいただいて、高校生の視点を取り入れてもらえたらうれしいです。

○ 今後の黒潮町の展望について教えてください。

→ (黒潮町で開催した) 高校生サミット世界会議は半年でやりました。受入れ側としては非常に大変でした。しかし、やれたという自信は大きいです。例えば、外国人の食事対応ができたことは、今後防災面でも対応ができるという自信につながりました。また、大方高校生が全て英語で仕切りました。やればできるんだという経験は、今後、国際会議だけでなく、国際交流も含めていろんな国の人たちを町をあげて受け入れることができる素地ができたことは、非常に大きな成果です。29 か国から来た高校生たちは、その国のトップレベルの中で選ばれた子どもたちでした。将来、必ずそれぞれの国で要職に就くような人材です。その子たちが、黒潮町に来て学んだことを生かしていくと確信しています。それは、国際交流だけでなく、世界平和にまでつながっていくと実感しています。本当の成果というものは、30 年先ではないかと思っています。

○ 矢掛高校の発表の中で印象深かったのは、責任感や達成感やコミュニケーション能力の高まりなど、自分の力が伸びていくことを自覚し、自分たちの活動の意味付けをしっかりとしているということでした。地域の人たち、もしくは大人、学校、社会などに求めるもの、要望やリクエストを聞かせてください。

→ 矢掛町の空家を活用して結婚式をしてはどうかという企画を考えました。役場や地域の人にインタビューして情報をいただきながら進めましたが、空家を借りることは難しかったです。子どもたちだけでやったので難しいことが多かったです。もう少し子どもたちの意見を聞いてもらえればと思います。

→ 矢掛町でも若者の転出が問題になっているので、若者が来やすいような施設をつくってもらいたいです。

→ 私たちがこのような活動をできているのは、地域の方々や先生方の協力があってこそです。積極的に協力し合う環境づくりや YKG のようなグループやサークルがもっとできるといいと思います。

○ 自分が 20 年以上ボランティアについて研究しているのは、高校時代の苦い経験が基にあります。高校 2 年生の時に高齢者福祉施設で夏祭りに参加してくださいという募集がありました。介護について何も知らないまま参加し、聴覚障害のおばあちゃんを担当しました。その場で、言葉でやりとりできないことがわかって、筆談もできなくて、動揺してしまい、自分は何もできない人間だと思ってショックを受けました。結局、そのおばあちゃんとは目を見てうなづいて話をし、車椅子の横にしゃがみ込んで手を握った状態で花火を見ていたのですが、涙が出そうなくらい無力な自分を感じたつらい経験でした。今だったら、「それって意味あったよ」と言ってあげられるのに、その時の周りの大人は何も関わってくれず、「それでいいんだよ」の一言もなく…。その経験があったから、今までボランティアの研究を続けてこられたのかなと思います。今日は、高校生が立派な活動をたくさん発表してくれましたが、この年代ならではの小さな心のドキドキだったり、小さなチャレンジだったり、そういったものを周りの大人がしっかりと支えて、評価して、高校生の力を社会に引き出せるような地域を創っていけたらなと思います。

ワークショップ

「若者と共に拓く地域づくりにどう取り組むか」

(ファシリテーター：実行委員 柳瀬 剛・宮崎 恵)

ワークショップの方法

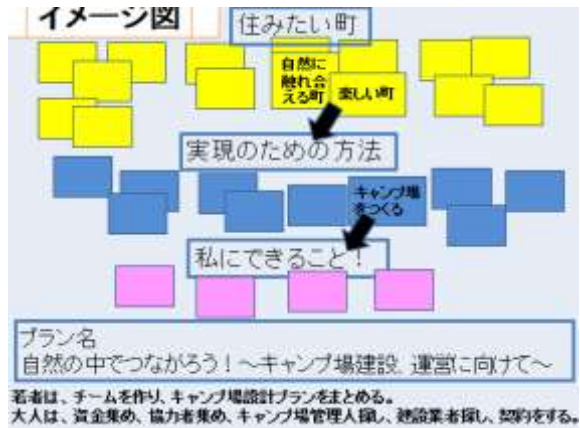
キーワード・問いにそって、付箋に書く

↓

模造紙に説明しながら貼る

↓

グループトーク



基本ルール

他人の意見を否定しない
 多様な考えを認め合いましょう
 対等な関係で話し合きましょう
 大人＝教える側 若者＝教えられる側

秘密を守る
 ここで知った個人情報を持ち帰りません。

時間を守る
 演説禁止です。決められた時間内で、みんなが話せるようにご配慮ください。

アイスブレイク①

自己紹介
 名前(愛称でもOK)・所属
 ふるさと自慢
1人 30秒!
やさしい笑顔で、うなづきながら
拍手は、全員が終わってから

アイスブレイク②

グループ対抗ゲーム
「合わせていくつ？」

全部で2問
 豪華賞品あり!

第1問

氏名に濁音(")が付く文字数のグループ合計

付箋に合計数を書いてください。制限1分

例えば
 み や ざ き め ぐ み 2点

第2問

東予地方の小学校は、合わせていくつ?

・付箋に数を書いてください。制限1分
 ・正答との誤差を減点!
 ・一番近い班は、ボーナス5点!
 ドンピシャなら10点!

正解は... 91校

四国中央市 19校 新居浜市17校 西条市25校
 今治市26校 上島町4校

ちなみに20年前の平成8年度は...

110校 児童数約3万5千人

↓ 19校減 ↓ 約1万人減

91校 児童数約2万5千人

ワークショップ

「住みたい町」

黄色の付箋に書く。
付箋1枚に一つの考え(短い言葉で)
できるだけたくさん書く。
(3 分)



ワークショップ

「住みたい町」

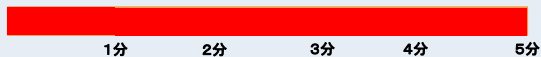
貼り出し、説明。(説明は簡単に)
(7 分)



ワークショップ

グループトーク

「Best住みたい町」を相談して決めよう
(5 分)



ワークショップ

「実現のための方法」

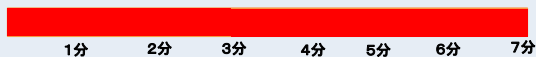
青色の付箋に書く。
付箋1枚に一つの考え(短い言葉で)
できるだけたくさん書く。
(3 分)



ワークショップ

「実現のための方法」

貼り出し、説明。(説明は簡単に)
(7 分)



ワークショップ

「私にできること」

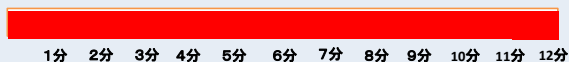
ピンクの付箋に書く。
○今していること
○これからしたいこと
(3 分)



ワークショップ

「私にできること」

貼り出し、説明。自分を語りましょう。
(12 分)



ワークショップ

「チャレンジプランをまとめよう」 グループトーク

プラン名()
役割確認 若者は()する
大人は()する
※ 具体的に考えましょう。
(10 分)



「チャレンジプラン公開」

- 他のグループのチャレンジプランを自由に見て回ります。
- 緑の付箋にたくさんコメントを書いて貼ってください。

(10 分)



自分のまとめ

気づき、感じたこと、自分の関わり方など、12ページのメモ欄に自由記述

(3 分)



ワークショップの記録





ワークショップの振り返り

- 最終的に子どもの教育に行きつく班が多かったように思いました。社会に出たときに挨拶ができるなど、マナーが求められているように感じました。
- 自分たちの班は、「大人が人集めをして若者がアイデアを」ということでまとまりました。他の班には逆の考えもあって驚きました。印象に残ったのは、「笑顔、活気のある町」づくりです。私たちの班は「交流」をメインテーマにしましたが、似たようなテーマの班の中に「夢を語るスペースをつくる」というプランがあって、新しい気付きでした。全体を通して、「若者も大人もみなさん集まりましょう」というのが共通しているところだと感じました。
- いろんな世代の人とお話しできてよかったです。自分たちの班は「挨拶できる町」づくりについて話し合いました。自分は高校3年生なのですが、「通学路が一番多く挨拶が交わされる場所なので大切にしたい」という意見を出しました。すると、いろんな人から意見をもらえて、自分たちがやってきたことが認められてうれしかったです。今日は来てよかったです。
- 高校3年生です。初めてこのような会に参加させてもらって、いろんな世代の方と交流できたので、自分にはないアイデアやいろんな視点からの考えを聞いたので、すごく勉強

になりました。このようなことを後輩たちにも伝えていって、さらに輪が広がればいいなと思いました。

講評（愛媛大学名誉教授 讃岐幸治）

開会式の実行委員長の挨拶の中に「縮充」という言葉がありましたが、「縮充」とは何か。今のワークショップの如し。ワークショップには四つポイントがあります。町づくりもそうです。一つは、縦から横に行かなければなりません。今までは国に従っていかうとしてきたのですが、今からは横の問題になってきます。斜めもありますね。高校生とお父さんじゃなくて、先生じゃなくて、おじさん、おばさんと話していく。斜めの関係もできあがっていきます。縦から横になってきたというのが一つあります。もう一つは、「マインからマインド」というのが発表の中にありましたが、「ハード」の時代から「ソフト」の時代が変わっている。どういう事業をするか、どういう施設を建てるかといった時代ではなくなっている。どういう風に活動を活発にするかが大事になってきます。もう一つは、大きなマスで考えていくのではなくて、顔が見えるということが大事、ミニの時代になってきています。もう一つはMeの時代「私に何かしてくれ」だったのが、Iの時代が変わってきています。私が主役、私が当事者になっていく。これら四つのポイントで町づくりがなされようとしています。それをやるために、地域教育という概念を作ったのです。「地域を学ばんといかんなあ」「地域のことを知らんといかんなあ」ということで、地域の若い者も高齢者も集まってワイワイしながら地域で育っていく。そうするうちに、みんなの知恵を出し合って地域を創っていくかなあというように転換されてきたんです。これが、地域教育という概念です。今日の大会がそのものです。みなさんがやったワークショップ自体が、町づくりでもあるし、事おこしでもあるのです。それを、体で覚えてもらうのが一番いいです。それが、習熟ということ。ある意味、「教育の地産地消」ですね。自分たちの中にどういう課題があるか、それをみんなが寄り集まってみんなで作っていくのです。足元を見てみたらいっぱいあります。課題がいっぱいある、宝物もいっぱいあります。それに磨きをかけて自分たちでつくっていく、そういった大会になっていました。今日は、高校生のすごい発表がありました。高校生が町をつくっている。来年度の大会はもっと大規模にやってみたいなと思いました。

閉会の言葉（副実行委員長 西山 博）

シンポジウムでの高校生たちの発表が、これからの町づくりのヒントになったのではないのでしょうか。「若者と共に拓く町づくり」ということをテーマにしたワークショップも、非常に活発で、いたるところで笑い声が聞こえてきました。人の触れ合いが十分にできたのではないかと思います。また、町づくりのためのヒントが得られたのではないかと思います。小学校では、公民館を通じて結構地域とのつながりはありますが、中学校、高等学校、大学とだんだん減っていくような気がします。その後、結婚して子どもができて、ようやくまた公民館とつながりができていくという、そのような繰り返しが今までであったように思います。今日の高校生のような力を考えると、もっともっと高校生に活躍してもらって、大人も地域に関われるんじゃないかと思いました。ワークショップの後の感想で、私はこのように書きました。「若者と大人、この企画は大変よかった。高校生もしっかり考えているなあ。これからの日本は楽しみだ！」継続は力なりといいますが、来年以降も続けていって、みなさんのお力でさらに発展していけばと思います。



アンケート集計結果（回答者 49 名）

【年齢】

10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
13	1	3	11	7	5	9

【所属】

小・中・高校生	教職員	保護者	公民館	青少年健全育成団体	市町行政	その他
13	3	7	9	3	2	12

1 シンポジウム（高校生の実践報告等）はどうでしたか。一つ選んで○をご記入ください。

ためになった	ためにならなかった	どちらともいえない
45	0	4

10代

○ 矢掛高校は、学校全体での取組がとても活発で、見習えるところが多いと思った。

20代

○ 地域との交流をしているのが、本校では一部の学科だけなので、学科をまたいだ活動の参考になるものがあり、たいへん勉強になった。

30代

○ 存続の危機がかかっている地域、高校での切なる思い、活動、行動力を聞くことができ、たいへん勉強になった。

40代

○ 様々な事例を紹介してもらっただけでなく、子どもたちの生の声が聞けたのでよかった。

○ どの発表も、背伸びせずに、自分たちができること、やりたいと思うことから始めている。とにかく「やる！」「やってみる！」が大切だなと思った。

○ 地域と高校生の関わり

○ 高校生のパワー、大人も負けてられないですね！大人ががんばらんと。

○ 高校生の発表、活躍の背景にある大人のサポートがすばらしいと思った。

○ ユネスコスクールの理念と、ESD の意味が感じられてよかった。

○ 4団体とも立ち位置の少し違う団体だったので、組織の作り方や運営の仕方が参考になった。

○ 地元新居浜の高校生が、こんなに豊かな学習活動を行っているを知り、驚きました。岡山、高知のまちぐるみの取組もステキ！

○ それぞれの学校・地域で意欲的に活動していて、それが地域に受け入れられているところに大変感銘を受けました。また、その活動を通じて、生徒のみなさんが着実に成長している姿が伺えました。

○ 若い方々の活動が、見ていてとてもうれしかった、うらやましかったです。地域の大人として、参加したいと思いました。

50代

○ よい例を知ることができて良かった。悪い終わり方の例を知ること、改善すべき点に気付かされました。

○ 今の高校の多様化がよくわかった。

- すばらしい活動をしていることを知らなかったので、勉強になりました。若者と共に何かできればと思った。
- 高校生の行動力や発想がすごくよかった。
- それぞれの場所で、それぞれの力を出しきって協力し合うことで、コミュニティーができていくということを再認識しました。
- 高校生の実行力に感心した。地域の一大人として、できることは何でも協力したいと思った。

60代

- 個人の意見を人前で発表する姿勢は、今後の活動の礎になるでしょう。
- 高校生との意見交換が必要と感じた。
- 高校生が積極的に地域に関わっている姿がよかった。
- いろいろな一生懸命な活動内容が直接聞けてよかった。

70以上

- 年齢に差があるためか、時代を感じます。
- 連携した自由な取組の大切さは、これからの地域社会には必ず必要ですね。特に、「生きてゆく力」の育成、連携を！
- 高校生（若者）の生の声を機会がなかったので、よかった。
- 高校生の発表、大変しっかりした考えをもって、いろいろ体験し、とても力強く感じました。頑張ってください。
- 若い世代の発表は、次世代を担う自信につながり、正確な判断力を養うことにつながる。
- 自分の住む地域ではあまり見られない高校生の姿に驚いた。これから近くの高校生にどう対面したらよいか考えさせられた。
- すばらしい高校生の活動があったと思った。これを機に力強い活動ができると思いました。体験は、その子の人格を形成すると感じました。

2 ワークショップはどうでしたか。一つ選んで○をご記入ください。

ためになった	ためにならなかった	どちらともいえない
47	0	2

10代

- たくさんの世代の人と意見交換ができてよかった。

20代

30代

- 改めて考えさせられた。
- 年齢の枠を越え、意見交換、経験交換ができて、とても楽しい身になる時間を過ごせた。

40代

- いろいろ意見が出たので、もう少し時間がほしかった。
- 一つのテーマについて話し合っても、アイデア、できることは無限に出てくる。あきらめないことが大切だと感じた。
- 楽しかったです！楽しく学ぶことが大切だと思います。
- 司会が当たっていたので心配もあったが、班員の協力で助けられた。
- いろいろな世代の人と交流ができて楽しかった。特に高校生と話ができてうれしかった。
- 見ず知らずの方々とお話しできるのは楽しい。
- 高校生も交えての意見交換で楽しかったです。
- 幅広い世代の人と同じグループで交流することができて、とても楽しかったです。
- 新しい発見があった。参加してよかった。

50代

- もう一度自分のいるところを見返すきっかけになりました。

- いろいろな人と話げできた。とても楽しかった。
- いろいろな世代の方との意見交換、大変ためになりました。
- 一人ひとりの意見が聞けてよかった。
- 様々な立場の方の話を聞くことができました。違う視点をもつことができました。
- 若者たちの力強さに、改めて感心した。

60代

- 各地にて地域コミュニティの弱体化問題があること。
- 各自の意見が多く出て、みんなの意識の高さが分かった。当連合自治会では、今日のテーマでまちづくり協議会を立ち上げており、参考になった。
- 時間が足りなかった。
- 時間がちょっと足りなかったが、よい Discussion げできた。
- 話合いが重要。

70以上

- 出席した若者と出席していない若者と、気持ちや考え方は同じでしょうか。
- 異年齢の方と、非常に楽しく参加させていただくことができました。若い方の生の声を聞くことができ、今後に生かしたいです。
- 世代を超えて多くの意見が出てとても楽しかった。勉強になりました。一つからでも実現できるように!!
- 気持ちが若くなった。元気になった。大変よかったです。
- 立場立場で気付き、考えが各々で自分の考えに固まりやすい年なので、時々こういう機会が必要と思う。

3 来年度(H29年度)、本集会で扱ってほしいテーマ・内容等をお書きください。

10代

- 時間をもう少し長くしてほしい。
- 世代などが関係なく、明るく楽しい町づくりについて
- プランを実現するために必要なこと。
- 場所づくり

20代

- 生徒が自発的に活動するために、大人がどのような下準備を行ったかを、実践例を踏まえてプレゼンしていただけるとありがたいです。

30代

40代

- NPO や企業との連携事例が聞きたいです。また、それに行政がどうかかわっていくか。
- ふるさとを思う気持ちをどう育てていくか。
- 活動実践が分かりやすいと思うが、いい事例を引っ張ってくる事務局の力量が問われると思う。
- 協働をテーマに扱ってください。
- 何か具体的にカタチあるもの(事業、企画)をつくる。→次の年に実現に移す。
- 二つぐらいの事例について、異なる立場の関係者(高校生、教師、行政等)がじっくりと語る…を聞いてみたいです。
- 学校給食について話し合いたい。

50代

- 集会に集まらない(無関心な)人に、どうアプローチするべきかを話す。
- 中高生が参加できるような会になるといいと思うので、中高生が話し合えるテーマがいいです。

- 交流会等もやってほしい。

60代

- 自治会の活性化のために!!隣近所での問題点は?
- 地域課題の解決方法、発展方法の勉強

70以上

- まちづくり計画と実現化について
- 「縮充」の時代を生き抜く力をどう養うか。
- グループでまとめて、見て回って、それぞれの考えが広がって、子どもを育てることを考えてもらい、若い人が活動できる場づくり

4 感想やご意見等、自由にお書きください。

10代

- これからやりたいことや、すごい!と思うことが見つかりました。
- いろいろな世代の方と交流できたので、ためになった。
- シンポジウムでは県外の高校がどのような活動をしているのか、とても勉強になりました。ワークショップでは、幅広い年代の方々と意見交換をすることができ、新しい発見ができて、来てよかったと思いました。
- 違う世代の意見を聞くことができたのでよかった。
- この会に参加できてとてもよかったと思います。こういった会にまた参加したいと思いました。
- こういった交流の場は初めてで、右も左もわからなくて不安だったけど、世代の違う人たちとの交流はとても楽しかったです。
- 世代が違ういろいろな人たちとの話し合いを初めてしましたが、世代が違うので、違う考え方をもっている人が多くて、とても楽しく、いい経験になったと思います。
- 年代が違う人たちと交流できて、学校では味わえない経験ができた。
- 楽しかったです。自由に自分の意見を話せたし、たくさんの意見を聞けてよかった。

20代

- 様々な下準備をしていただいていたありがとうございます。楽しく参加させていただきました。また、機会があれば参加させていただきます。

30代

- 非常に勉強になりました。今度は生徒を連れて来たいです。
- 初めて参加させていただき、大変有意義な1日になりました。主催者の皆様、参加者の皆様、大変ありがとうございました。

40代

- 学生と意見を交わすことは少ないので、大変良かったと思う。多くの学生が、これからもこの活動に参加してもらえたらありがたい。
- いろいろな話ができて、たいへんよかったです。
- 新居浜市にスポットを当てた集会にも参加したいです。高校生の考えるまちづくりシンポジウムの拡大版を開催してください。
- お声掛けいただき、ありがとうございました。とてもためになりました。またよろしくお願ひします。
- いろいろな意見を聞くことができ、「ちがいは「豊かさ」だな〜と感じました。ここから何か生まれそうで、楽しみです。
- 様々な世代の人たちが地域づくりに関わっていくことが大切であると思いますし、そのためにも学校と地域の関わりをもっと密にしていくことが必要であると思いました。
- 次回が楽しみです。ありがとうございました。

50代

- 横のつながりが少し弱いので、スクラムを組み協力しましょう。
- 2回、3回と続けてください。
- 三芳祝太鼓の音が心に響きました。保護者の方が影の力となって動いているのも地域の力かなと感じました。
- 高校生の話を聞くことができよかったです。
- 自分の住んでいる町のことを愛して、そして将来のことを真剣に考えている方が、こんなにたくさんいらっしゃるということに感激しました。とても良い企画（取組）だと思いました。

60代

- 地域以外の方々の問題点を知り、今後の活動の参考にしていきたいと思いました。
- 初めての会、お疲れ様でした。
- もっとたくさんの人たちに集まってもらい（集めるように工夫して）、体験報告等、協議したらよいと思う。
- 高校生も参加されていたが、今後はもっと多くの参加者を。

70以上

- これからは、もっともっと環境問題の比重が大きくなると思いますが、特にあらゆる分野での後継問題を取り上げてほしい。
- 新居浜市の情報誌で May のイベント内容は目にしていましたが、どのような団体組織なのか？と思っていたので、今日の発表にてよくわかりました。ありがとうございました。
- 参加できてよかった。
- 参加してよかった。次回も機会があれば参加したい。
- ありがとうございました。地域コミュニティーに取組がたいへん必要に思いました。すばらしい高校生がたくさん育っていることに感動しました。
- 初めてこんな会があることを学びました。近くで開催されるのもっと PR してくれたら、見学するだけでもいい会になったと思うので残念。
- 幅広い子どもたちの活動が勉強になりました。

参 考

「地域教育東予ブロック集会」 第1回実行委員会 協議記録

2016, 9/27 (火) 19:00～

於：魚民 JRいよ西条駅前店

1 参加者

若松進一県実行委員長、関福生委員長

実行委員（榎木、西山、瀬川、宮崎、柳瀬）、事務局（谷口）

2 協議内容

ア 本会立ち上げの経緯について（若松県委員長、事務局）

- 地域教育実践交流集会の取組と成果、ブロック集会開催への思い
- 東中南予別ブロック集会事前検討会における協議内容の説明

イ 「地域教育東予ブロック集会」開催における検討事項

- 開催日 平成29年2月5日（土）
- 開催場所 西条市中央公民館（ホール、会議室）
- 日程（半日開催） 12:30 受付 13:00～16:00
- 内容
 - ・全体会でシンポジウム、その後分散会
コーディネーター…神山の大南さんはどうか
 - ・実践報告 県内外で活動している高校生の取組
(たとえば新居浜南高校、新居浜mayなど)
県内3・県外3程度でどうか
- 予算配分（未定）
- 周知方法（未定）

「地域教育東予ブロック集会」 第2回実行委員会 記録

2016. 10 / 25 (火) 19:00～

於：新居浜あかがねミュージアム

1 委員長挨拶

2 役員等の選出

委員長 関 福生 副実行委員長 西山 博

会計担当 柳瀬 剛 事務局 谷口 晃

3 議題

(1) 集会の趣旨

毎年大洲で開催している「地域教育実践交流集会」において、各地の地域活動者・活動グループが、互いの交流を深め、地域の教育力を高め合う交流を行ってきた。その取組を東予で行い、新たな実践者の発掘や地域教育にかかわる者のつながりを広げていくために「かかわりをチカラに、つながりをカタチに」を合言葉に本集会を行う。

(2) 開催日 平成29年2月5日(日)

(3) 開催場所 西条市中央公民館(ホール、大会議室)

(4) 日程

12:30~13:00 受付、アトラクション(三芳祝い太鼓)

13:00~13:15 開会行事

13:15~14:45 インタビューダイアログ(実践報告：県内2県外2)

14:45~15:00 休憩

15:00~16:00 ワークショップ(地域別)

「若者と共に拓く地域づくりにどのように取り組むか」

16:00~16:10 発表準備、休憩

16:10~16:30 ワークショップ内容発表

16:30~16:40 閉会行事

(5) 内容

ア アトラクション(約15分)

三芳祝い太鼓(活動歴約30年、えひめ教育の日で演奏)

イ インタビューダイアログ講師

可児高校 浦崎さんに依頼

ウ 分散会報告候補団体

【県外】

1 高知県黒潮町 高知県立大方高等学校

地域の人たちがまちの課題を解決するためのミッションを提示し、大方高校の生徒が「自律創造型地域課題解決学習」で課題解決に取り組む。

2 岡山県矢掛町 岡山県立矢掛高等学校

「地域教育東予ブロック集会」第3回実行委員会 協議内容

2016. 12 / 12 於：西条図書館 会議室

1 参加者募集について

ア チラシ配布予定先

管内高等学校、市町教育委員会社会教育(生涯学習)課、公民館、小中学校
小中高PTA、愛護班、婦人会、ボーイスカウト、市町の市民活動センター機関
実践交流集会実行委員及び県内参加者(団体)、子どもチャレンジ関係者、
社教主事有資格教員、社教委員、青年会議所、社会教育関係諸グループ

イ 配布方法

高等学校、市町教委には事務所から逡送便で送付(送付状付けて)

小中学校PTAにも同様に逡送便で送付(会長宛)

公民館、市民活動センターには、関係者への参加案内とチラシを置く依頼
(事務所で手分けし、送付状とチラシを持参しお願いする)

愛護班、婦人は市町教委から、市町の班長・会長に届けてもらう

(事務所から逡送便で 市町教委への依頼状と班長・会長への送付状)

他の団体について…各理事が分かるところに届ける

ウ 募集人数目標値 高校生60人 一般90人 合計150人

<高校生募集割当>

関・榎木…新居浜30人 西山・青野…今治10人

宮崎・柳瀬…四国中央10人 瀬川・谷口…西条10人

一般…各自で声を掛け募集、メ切を待って人数によって動員依頼

2 集会運営について

<全体進行:東予教育事務所 越智社会教育主事 写真:瀬川>

DVD録画:柳瀬・渡邊(アトラクションから最後まで、固定録画)

ア 来賓について なし(本会も、中・南予も同様)

イ 開閉会の挨拶について 開会挨拶はステージ幕前で(アトラクションとの関係)

開会挨拶:関委員長 集会趣旨説明:青野委員

閉会挨拶:西山副委員長

ウ アトラクションについて

ステージ上で演奏(太鼓の搬出入はステージ下手から直接外へ)

太鼓の搬入は11:30、児童の会場入りは12時までに控室へ

弁当は用意しないが、一人500円程度の計算で団体謝金とする

エ インタビューダイアログ(シンポジウムに変更することで決定)について

コーディネーターは、東温市の柴崎あいさん(愛媛ボランティア学習研究会)

実践報告 新居浜南高校ユネスコ部 参加者は最大生徒11人、最大教員3人

高校生サークルMay 参加者は生徒3人、保護者1人

黒潮町教育委員会 参加者は1人:畦地和也さん(教育次長)

岡山県立矢掛高等学校 参加者は生徒3人、教員1人

高校生発！
私たちの地域づくり！



地域教育東予ブロック集会

運営資料

かかわりを千カラに
つながいをカタ千に

期 日 平成29年2月5日（日）12:00～17:00

場 所 西条市中央公民館

「地域教育東予ブロック集会」実行委員会

目 次

- 前日までの準備内容 1
- 当日の作業内容 2
- 細案（集会の流れ） 3
- 会場設営図 4～5
- 進行マニュアル 6～7



前日までの準備内容

NO	表示物	数	備考	書式	場所等	分担
1	横看板なし、スクリーン投影				ホール	柳瀬
2	懸垂幕（テーマ・講師名等）		プロジェクターで対応		〃	〃
3	立看板（会場入口）なし、貼り紙	1	A3サイズ	縦	正面入口	谷口
4	パソコン・プロジェクター	各3	発表、掲示		ホール	事1、西条2
5	コードリール	3	PC・PJ用		〃	中公借用
6	当日資料冊子・資料用封筒	150			ロビー受付	谷口
1	司会台	1	開閉会		ホール	越智、瀬川
2	マイク	4	ワイヤレス4		〃	三好、榎木
3	マイクスタンド高1、低4	5	アトラクション用		〃	〃
4	長机（受付・インビュー）	7	受付2ステージ5		ロビー、ホール	渡邊、石原
5	長机（フロア用）3台×15組	45	不足分は会議室から		ホール	全員
6	椅子	105	各班に6～7脚		〃	〃
1	全体会場表示	1	A3サイズ	縦	ホール入口	谷口
2	垂らし紙 登壇者	5	〃	〃	ステージ上	〃
3	控室表示 （講師、アトラクション、発表者）	3	会議室、応接室 和室（市民憩い室）		各室	〃
4	受付表示（県外・管外、管内、学生）	3		縦	ロビー受付	〃
5	駐車場確保張り紙 （講師、バス等 コーンで確保）	3	A3 コーンの数確認	〃	駐車場	〃 公民館
6	アンケート回収箱	1		横	ホール	越智
7	アンケート用紙	150	受付で配布		ロビー受付	〃
8	受付名簿	3	県外・管外、管内、学生		〃	柳瀬
9	おつり用500円	数枚			〃	渡邊
10	セロテープ・筆記用具・集金箱（袋）	適量	受付用		〃	〃
11	模造紙・付箋紙・マジック・磁石	班数	ワークショップ用			柳瀬
12	ビニルテープ はさみ	適量	目印用		舞台の机位置	〃
13	乾電池（単3）	適量	マイク用			〃
14	控室用お茶、お菓子 ポット、湯呑み（中公に借用）	3	3室分（越智）		菓子器3	越智
15	全体会場用お菓子	15	各テーブルに1		紙織菓子器15	越智
16	旅費、宿泊費（実費支払）		計算（瀬川）			柳瀬・谷口
17	謝金					〃
18	領収書（参加費、旅費、謝金）					〃
19	会場使用申請、減免申請					谷口
20	当日資料原稿作成、印刷					柳瀬・谷口
21	カメラ、DVD録画		渡邊、瀬川、柳瀬			3人で
22	参加者名札					越智
23	弁当注文・支払	約40	越智			越智・柳瀬
24	グループ分けのくじ（高校生、一般）					谷口
25	宿泊手配（矢掛、黒潮）	5室	予約済み			〃

当日の作業スケジュール

	作業内容	人数	備考
会場準備	1 ○全体会場設営（全員） 机・椅子配置 ○ステージ横機器（西山、瀬川、青野） ○ステージ機器、動作確認（柳瀬、榎木） ○マイク設置、動作確認（三好、中公職員）	15	8時30分～10時 実行委員（7） 東予教育事務所（2） 渡邊、越智
	2 ○受付準備（宮崎、渡邊） 資料、名簿、垂らし紙、釣り銭等 ○駐車場コーン（石原、平塚） （進行役1台） ○会場表示（瀬川、青野） 全体会場、進行役・役員控室 太鼓控室、発表者控室、玄関表示 ○湯茶、お菓子準備（越智、津嶋） ○矢掛・黒潮発表者宿泊ホテルへお迎え		西条市集会協力者（4） 三好、石原、平塚、津嶋 中央公民館（2名程度） 会場のことで随時 9：50頃 柳瀬車でお迎え
集会前	1 ○高校発表者対応 控室：市民憩い室 ○柴崎氏、黒潮教委対応 控室：応接室 ○シンポジウムリハーサル（ホール） 進行役、発表者		10時～11時 関、西山、榎木（弁当も応接室で） 10時15分ごろ～11時 柳瀬、青野、渡邊
	2 ○進行役、発表者、役員の弁当受付 ○弁当配布 応接室5個 市民憩い室11個、会議室10個		10時30分～50分受取 越智 11時配布 宮崎、瀬川、越智
	3 ○昼食 進行役と黒潮教委、接待者：応接室 高校生・引率：市民憩い室 実行委員・役員等：会議室		11時～ 適宜 実行委員・役員は、11時30分 までに食べ終わる
集会直前対応	1 ○太鼓搬入 ステージ横の搬入口から ○アトラクション児童会場入り 控室：会議室 対応（瀬川）		11時30分 三芳祝い太鼓 12時までに
	2 ○受付（西山、宮崎、渡邊、津嶋） ○駐車場整理（三好、石原、平塚）		11時45分ころから 石原、平塚は12：40ころステージへ（配置換えのため）
集会中	1 ○ステージの音響・照明・緞帳（中公） ○ステージ配置換え （渡邊、平塚、石原、毛利、西坂、中公）		アトラクション後、太鼓の撤去 テーブル・パイプ椅子の設置 長机1・4、椅子1・5・4
	2 ○司会・進行（越智） 写真（瀬川） DVD録画（柳瀬・渡邊） PC操作（柳瀬、榎木、青野） フロア照明（瀬川） マイク（青野）		シンポジウム（柴崎あい） ワークショップ（柳瀬、宮崎） ワークショップ 補助（榎木、渡邊、石原、毛利、西坂）
	3 ○フロア照明（瀬川） マイク（青野）		
終了後	1 ○全体会場、控室等片付け		全員で（準備個所を中心に） ※各部屋整頓及び清掃も ☆ 黒潮、矢掛JRお見送り 柳瀬
	2 ○受付・マイク・機器片付け		

第1回 地域教育東予ブロック集会 運営細案

1 受付（12:00～13:00）（西山、宮崎、渡邊、津嶋）

- ① 名簿に○を記入し、参加費を受け取り、資料と領収書を渡す。
- ② グループ決めのくじを引いてもらい、出席名簿に番号を記入する。
（くじは、高校生用と一般用に分けて準備）
- ③ 名札用紙をとってもらい、所属・名前（自由に）記入し着けていただくよう声をかける。
- ④ 11時45分ごろより、駐車場の整理・誘導（三好、石原、平塚）
- ⑤ 柴崎さん・畦地さん対応（控室：応接室 関、西山） お茶・接待（越智、津嶋）
- ⑥ 高校発表者対応（控室：市民憩い室 榎木） お茶（セットを置いておく 〃 ）
- ⑦ アトラクション団体対応（控室：第1会議室 瀬川） お茶（セットを置いておく 〃 ）
- ⑧ 開会行事挨拶者等の対応（ホール席は前方左側に確保、自らステージへ上がる）
開会挨拶：（ 関委員長 ）
集会趣旨説明：（ 青野委員 ）
- ⑨ 登壇者（10名）の対応（ステージ上手で待機 案内は西山）
コーディネーター：柴崎あい
新居浜南高ユネスコ部：加藤文音、古川若奈（河野義知）
高校生サークル「Ma y」：山野華穂、藤田朋花、篠原さやか（小野志保）
黒潮町教育委員会：畦地和也
岡山矢掛高校：中村彩楽、西村優芽、井辻拓海（高木潤）

2 アトラクション（12:35～12:50） 進行：（越智）

この後に太鼓撤去、シンポジウム用に会場設営（渡邊、平塚、石原、毛利、西坂、中公）

※ 終了後のお礼、お見送りの対応：西山

3 開会行事（13:00～13:15） 進行：越智 写真：渡邊

開会挨拶： 関福生 実行委員長 自ら登壇し幕前で挨拶
集会趣旨説明：青野信久委員 〃

4 シンポジウム（13:15～14:45）

進行役：柴崎あい 記録：渡邊 写真：瀬川

- ① プレゼン操作（柳瀬）
- ② 進行役 柴崎あい
- ③ 舞台：緞帳・音響・照明（中公）フロア照明（瀬川）
- ④ フロア質疑用マイク担当（青野）ワイヤレスマイク1本

5 ワークショップ（15:00～16:30）（進行：柳瀬剛・宮崎恵）

（補助：榎木、渡邊、石原、毛利、西坂）
（写真：瀬川）（マイク：青野）

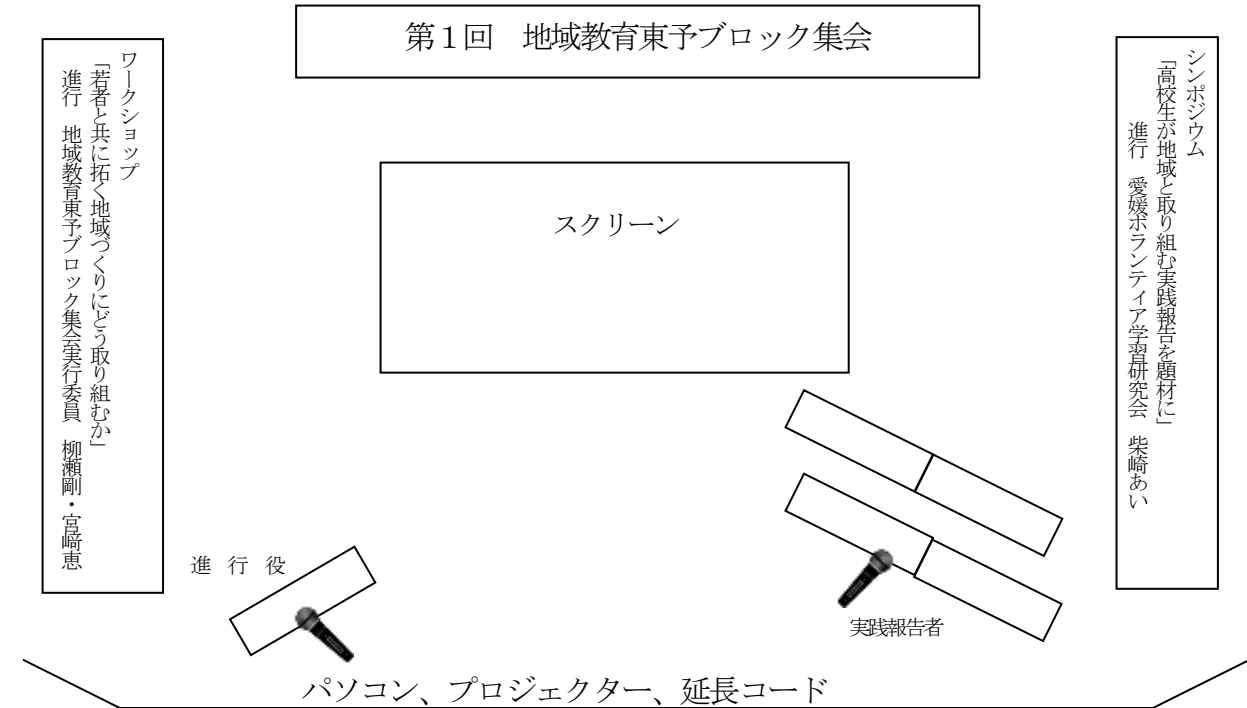
テーマ 『若者と共に拓く地域づくりにどう取り組むか』

6 閉会行事（16:30～16:40） 進行：越智 写真：瀬川

閉会挨拶：西山博 副実行委員長 自ら登壇し、舞台中央で挨拶

<会場設営図> ※ 開会行事は幕前

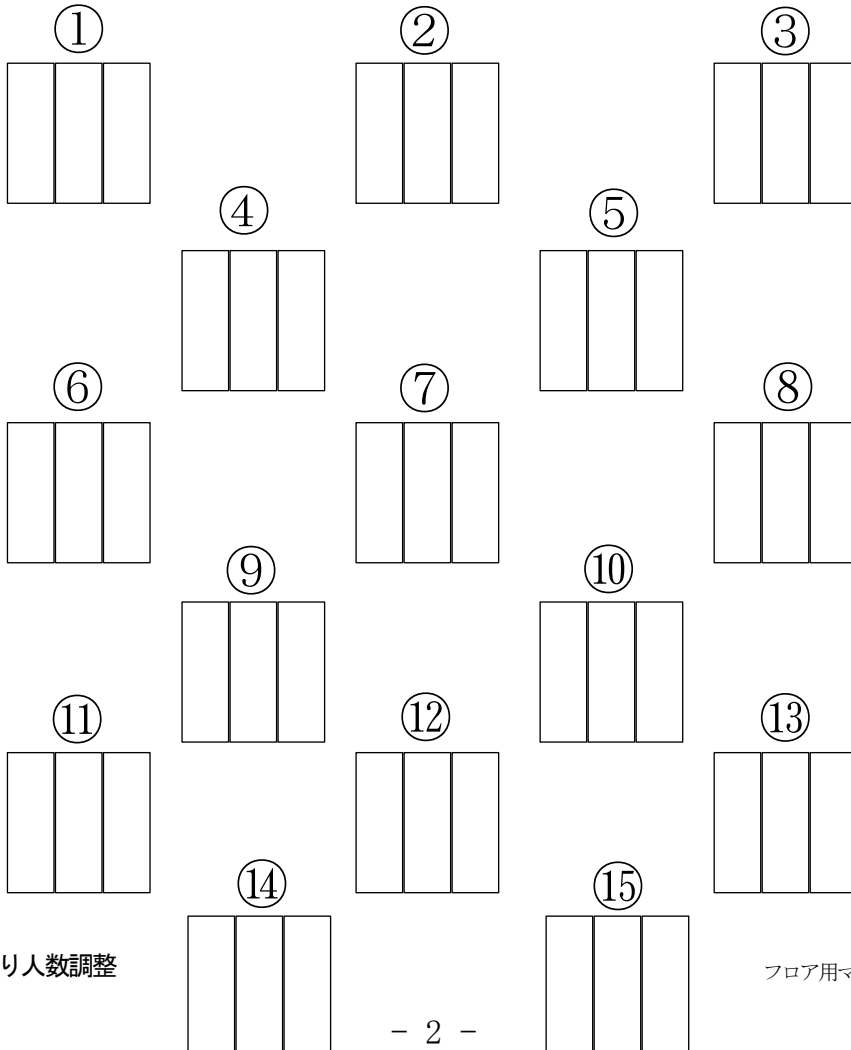
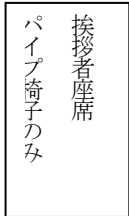
① インタビューダイアログ



※ 懸垂幕は使わず、代わりに両側の壁にプロジェクターで映し出す



(各班、長机3つ。椅子8～10脚 6人～7人×15班=90～105人)



※参加人数により人数調整

フロア用マイク1本



開 会	<p>本日は地域教育東予ブロック集会にご参加いただき、誠にありがとうございます。私は司会を担当させていただきます、越智洋子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それではただ今から、第1回地域教育東予ブロック集会を開会いたします。</p>	【司会】 越智
挨 拶	<p>開会にあたり、地域教育東予ブロック集会実行委員長 関 福生(せき ふくお)がご挨拶を申し上げます。</p> <p>続きまして、本集会の趣旨説明を、地域教育実践交流集会実行委員 青野信久(あおの のぶひさ)が行います。</p> <p>以上をもちまして、開会行事を終了します。</p> <p>ここで、会場準備を行いますので、そのまましばらくお待ちください。</p>	【司会】 越智
<p>(シンポジウム用で舞台配置換え) ※極力静かに おおよその配置ができたなら、緞帳を上げ、最終調整をする 合図：石原</p>		
シ ン ポ ジ ウ ム	<p>それでは、只今より、シンポジウムを始めます。</p> <p>シンポジウムの進行役は、愛媛ボランティア学習研究会の柴崎あいさんです。柴崎さんは、これまでに大洲で行われている地域教育実践交流集会で実行委員をされたり、12月に行われた第9回の交流集会では分散会で実践報告をされたりと、本集会とのかかわりが深く、本日も主催者サイドとして進行役をお引き受けいただきました。</p> <p>本日は、「高校生が地域と取り組む実践報告を題材に」というテーマでシンポジウムを進行していただきます。県内外から実践報告者としてお越しいただきました登壇者の方々との意見交流を行いながら、フロアの皆様と共に考えていく場にしていきたいと思っています。 それでは、柴崎さん、よろしくお願い致します。</p>	【司会】 越智
	<p style="text-align: center;">シンポジウム (柴崎さんにお任せ)</p> <p>以上でシンポジウムを終了します 引き続き行いますワークショップでは、このシンポジウムを受けて、これからの地域づくりについて意見やアイデアを出し合っていきたいと思えます。 それでは皆様、もう一度、進行していただいた柴崎さん、10名の登壇者の方に拍手をお願いいたします。 →ありがとうございました。</p>	マイク係 (青野)
諸 連 絡	<p>以上で前半の部を終わります。 ここで、事務連絡を申し上げます。 本日の資料の中に、アンケートが入っております。お帰りまでに記入され、入り口の回収箱にご提出くださいますよう、お願いいたします。 以上でございます。ワークショップは、この後 時 分より行います。よろしく申し上げます。</p>	アナウンス後、配置換え(ステージ上机・椅子・マイク撤去) (フロア前方長机・マイク配置)
ワ ー ク シ ョ ッ	<p>ただ今から、後半の部を始めます。『若者と共に拓く地域づくりにどのように取り組むか』というテーマで 本集会実行委員の柳瀬剛と宮崎恵の二人がW進行をさせていただきます。夫婦漫才のような勢いでがんばりたいと言っておりました。 それでは、剛さん・恵さん、皆様、よろしくお願い致します。</p>	【司会】 越智

	ワークショップ（コンビにお任せ）	マイク係 （青野）
	<p>ファシリテーターの剛さん・恵さん、積極的な意見交換をしていただきました参加者のみなさん、ありがとうございました。</p> <p>本日実践発表していただいた以外にも、高校生をはじめとする若者の皆さんによる地域づくりや地域おこしの取組は、管内・県内外各地で行われております。今後もネットワークを広げながら、各地の実践から得たヒントを各自の取組に生かし、「かかわりをチカラに つながりカタチに」できますことを願っております。それでは、以上でワークショップを終了いたします。</p>	
閉 会 行 事	<p>引き続きまして、ただ今から閉会行事を行います。</p> <p>それでは、閉会の挨拶を、地域教育東予ブロック集会副実行委員長 西山博（にしやま ひろし）が申し上げます。</p> <p>最後に事務連絡を行います。お帰りの際に、アンケートと名札ケースの回収をさせていただきます。出口にアンケート回収箱、名札回収用テーブルを置いておりますので、ご協力よろしく願いいたします。</p> <p>以上で、第1回地域教育東予ブロック集会を終わります。みなさま、本日はお疲れ様でした。お気をつけてお帰りください。</p>	【司会】 越智